

はじめに

防災マニュアルの目的

この防災マニュアルでは風水害及び地震のハザードマップを示しています。ハザードマップとは台風、大雨、地震が起きた場合に、どの地域にどのような危険性があるか、また、市内の避難所や協力施設などを地図に示したものです。住民の皆さんに防災マニュアルを確認し、活用していただくことで、風水害及び地震に対する備えを万全にし、災害発生時に被害を最小限にすることを目的としています。

1 知る

「中央市防災マニュアル」は、市で想定している被害の規模や範囲を、地図で示しています。まずは、自分の家や学校、勤務先などにどのような災害と被害が想定されているかを知りましょう。



2 考える

想定される災害と被害をもとに、いざというときに何をしなければならぬのか考えてみましょう。防災マニュアルに記載されている災害時に発表される情報や、とるべき行動、心得などを参考にしてください。



3 備える

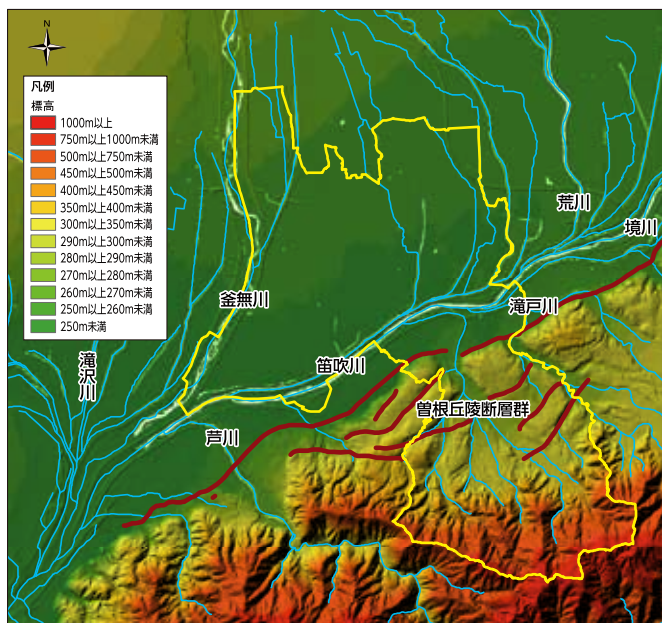
災害に対応するには、日頃の備えが重要です。災害が発生する前から災害対策に取り組み、いざというときに備えましょう。



目次

はじめに	2	地震ハザードマップ	18
防災マニュアルの目的	2	ゆれやすさマップ	21
中央市の抱える災害リスク	3	液状化ハザードマップ	22
自助・共助・公助	3	その他の災害	23
		防災の心得	24
洪水・土砂災害ハザードマップ	4	避難行動に配慮が必要な人への支援	24
洪水・土砂災害ハザードマップ・田富地区	10	災害時の情報について	26
洪水・土砂災害ハザードマップ・玉穂地区	12	避難所一覧	28
洪水・土砂災害ハザードマップ・豊富地区	14	地震時のマイ・タイムライン(避難行動計画)	30
浸水が継続する時間	16	洪水時土砂災害時のマイ・タイムライン(避難行動計画)	31

中央市の抱える災害リスク



中央市は、釜無川により形成された沖積平野の地域と御坂山系からなる地域とのふたつの地理的特性をもっていて、両地域は菅吹川によって隔てられています。

中央市の自然災害は、その地勢条件等から、集中豪雨等の水害が主なものです。平野部は、河川・水路改修が進んだことで被害は少なくなっていますが、近年上流の宅地化開発にあわせた改修・拡幅が大きな課題となっています。また、山間部は土石流やがけ崩れの可能性があります。

これに加え、中央市は菅吹川沿いに活断層「曾根丘陵断層群」が確認されているほか、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、地震が発生した場合、地割れ、液状化現象等による道路の寸断、住居の倒壊、火災の発生等大きな被害が発生する可能性があります。2011年の東北地方太平洋沖地震(M9.0)では玉穂支所で震度5強、本庁舎、豊富支所で震度5弱を記録しています。

自助・共助・公助

自助

連携

共助

公助

災害の被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれが連携し、災害への対応力を高めることが大切です。

自助 自らの命は自らが守る

自分の身を自分で守るための備えと行動を自助といいます。中央市防災マニュアルなどから災害に関する知識を身につけ、災害を正しく理解し、何を備えておけばよいかを考え、災害に対する準備をしてください。

共助 自分たちの地域は自分たちで守る

近隣住民の方々と協力して、地域を守るための備えと行動を共助といいます。災害が起きたときには、地域で協力して被害を最小限に抑えるなど、助け合いをすることが重要です。災害時に円滑に協力するためには、日頃から地域の防災訓練に参加するなどしましょう。

公助 行政、公的機関が守る

市、警察、消防、県、国の行政機関、ライフライン機関などの公共機関、こうした機関の災害対策を公助といいます。各機関とも、災害の発生からできるだけ早く、応急対策活動にあたるよう備えています。

自助・共助・公助の連携

災害の直後に自分を守るのは、自助の力です。自分ひとりでは対応できない状況になったとき、頼りになるのは共助です。それは同時に、お互いの共助の意識が大切です。

公助はその支援に限界がありますが、自助や共助では解決できない大きな問題に対応できます。これらの連携が、地域、そして自分の被害を最小限に抑えるために必要なことです。